始

特240
387

製炭者必携

鳳至郡木炭同業組合

3
73

序

本パンフレットは本組合の委囑に依り石川縣木炭檢査輪島出張所長農林技手中島勝彰氏組合員の爲め實際製炭上に心得ふべき事柄を詳細且つ平易に口述せらる之が代謄寫を頒布し以て木炭生産の改善に資せんとす

昭和十年十月

鳳至郡木炭同業組合

帝國圖書館藏

特240
387

目次

木炭檢査

木炭檢査に就ての注意……一

黒炭製炭法

炭窯……三

改良八名窯築設法……四

木材の成分……七

木材の炭化……八

炭化温度……八

蒸氣乾燥……九

點火……一〇

精煉……一三

合理的な製炭日割……一四

製炭の改良と實行組合……一五

萱の栽培竝萱俵

萱の栽培……一五

炭俵の製造……一六

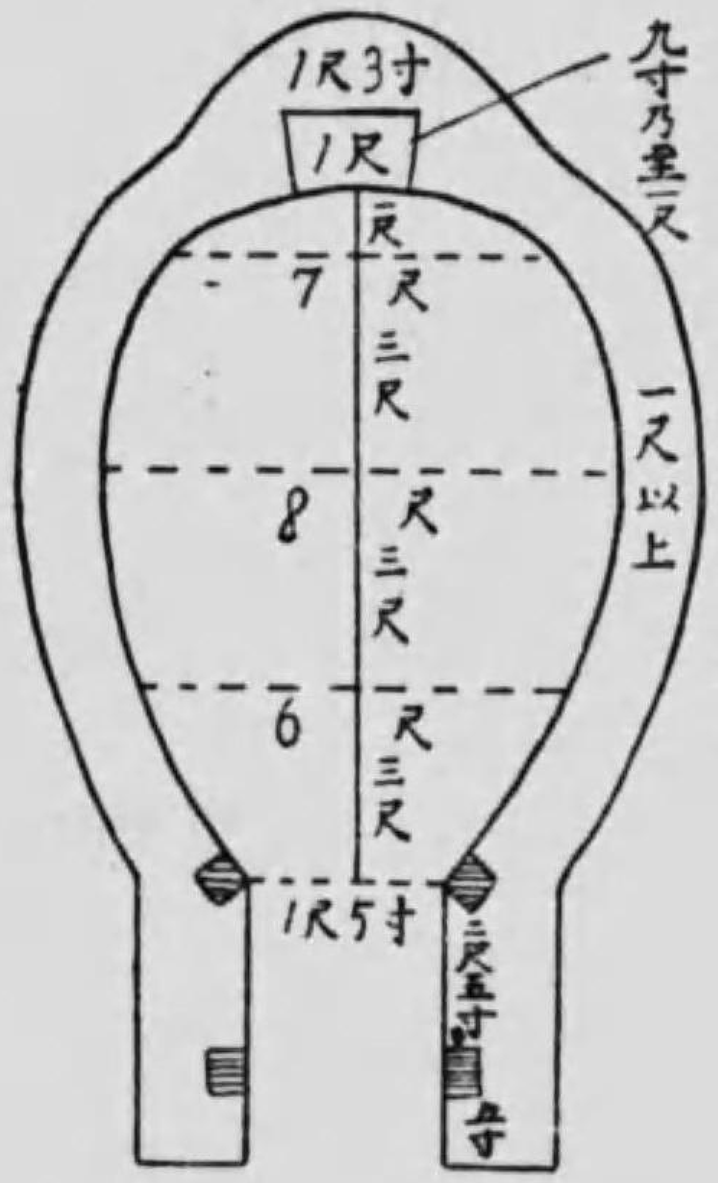
萱俵裝の作り方……一七

萱俵裝實施年度割……一七

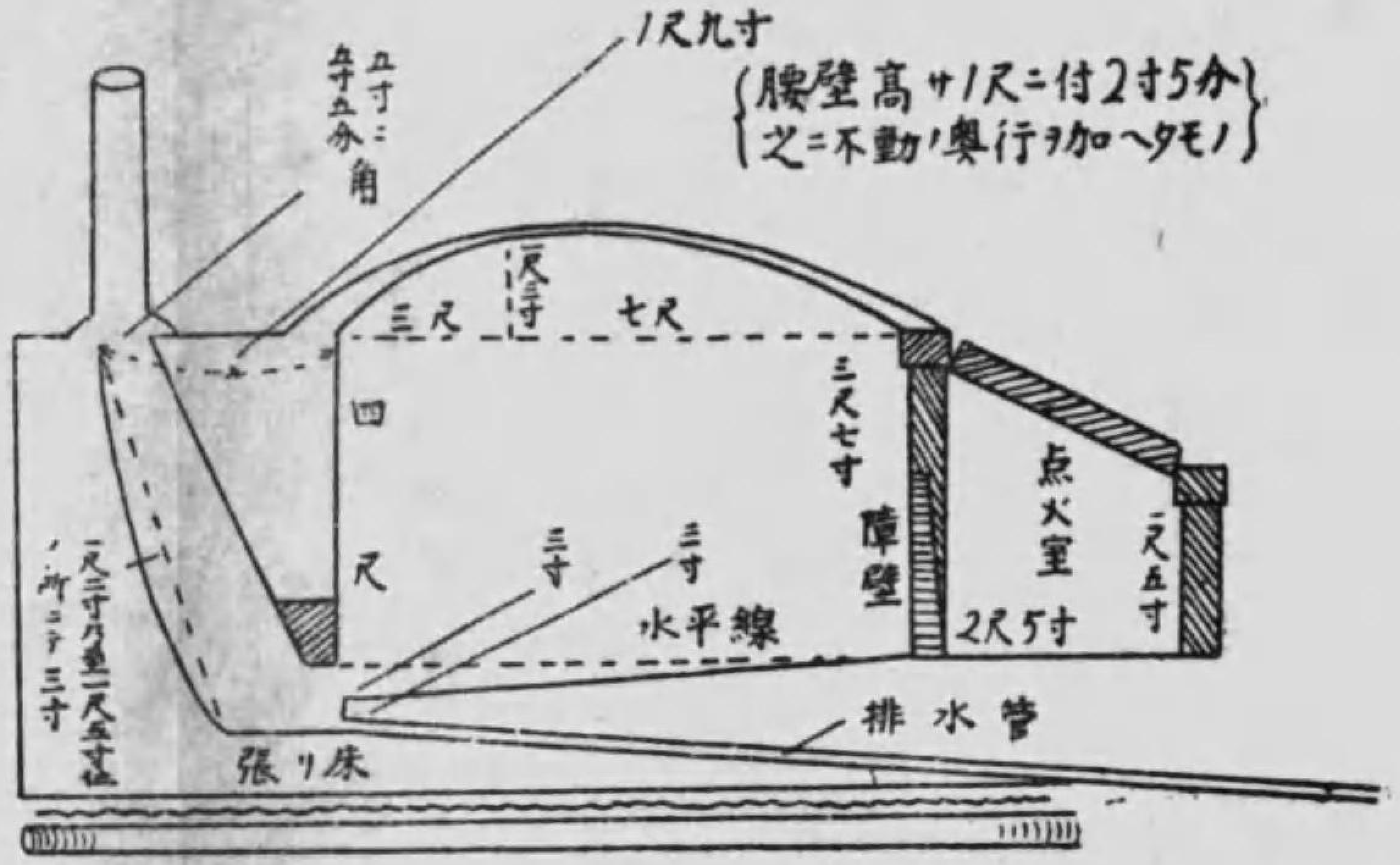
再び注意

檢査に就いて再び注意……一八

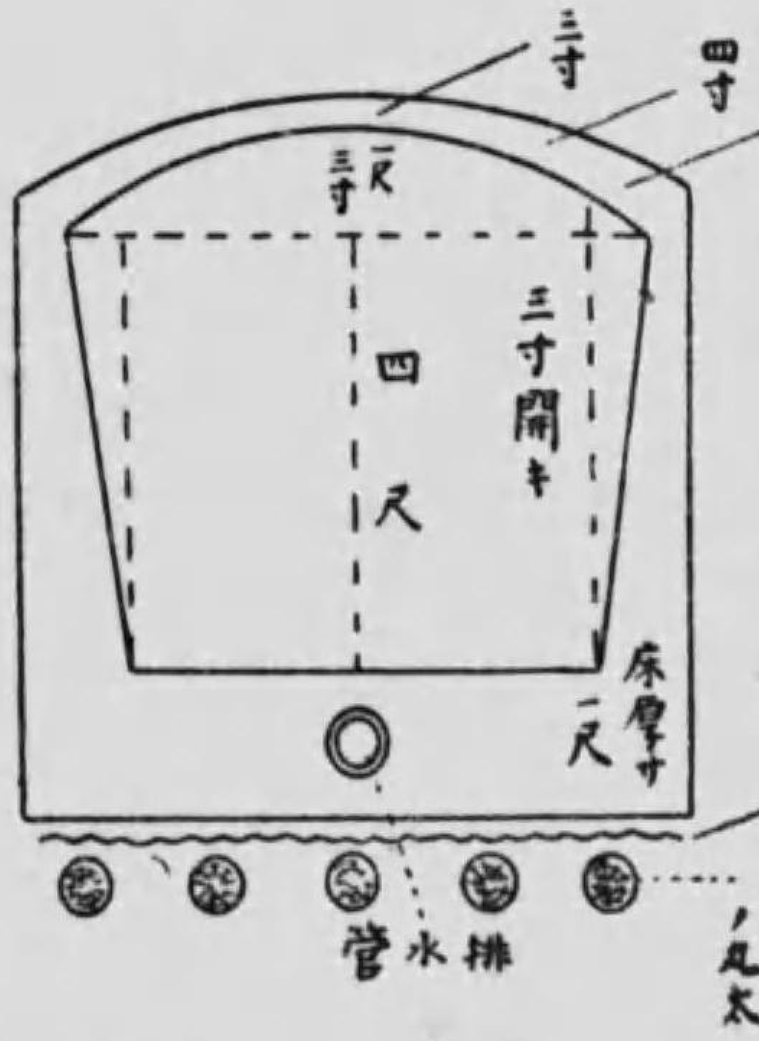
改良八名黑炭竈見取圖（130貫取）



第一圖　平面圖



第三圖　縱断圖



第二圖　横断圖

窯ノ大サヲ算出スル方法

イ．窯底面＝奥行×中心巾×0.8

ロ．立木部容積＝底面積×炭材ノ長サ

ハ．上方部容積＝（底面積×窯壁ヨリ天井最高部迄ノ距離×$\frac{2}{9}$）＋（底面積×窯壁高）－炭材長＋敷木ノ厚サ

木炭検査に就ての注意

検査に付いて一言御注意申上げ度いのは炭も良く撰別、量目、俵装共によい人もありますが、末だ〳〵色々質の悪い炭をこしらへる人が澤山ありまして検査上誠に殘念に思つて居ります。こんなことがいつ迄も續くと遂には他縣産の品物に押されて賣行不振となり、ドヽのつまりは結局自分等が其の損を背負はなければならぬ樣な破目になりますから今から末を考へて置いて頂き度い。

世の中の人は良い品物を安い値段で買ひ度い、同じ値段なら少しでも良い品物を欲しいと云ふ考を何れも持つて居りまして、之は誰にでもある共通の慾望であると思ひます、そして其の心理狀態も皆又じであると思ひます。でありますから買ふ人の氣持になつて拵へると云ふ事が一番賣行のよい品物を作る大切な條件で、此の精神をいつも持つて居りさへすれば間違のない品物をふだんに拵へ得るわけであります。私等は檢査のあるなしに係らず最も好い品、最も正しい品を作ると云ふ美しい精神でやつて頂き度いと常に願つて居る次第であります。世の中は自分のみの世の中だと思つて居たらそれは大變な間違です、大勢の人の世の中に居つてこそ始めて自分等も今日何うにか其の日の注活をして行けるのでありまして、お互に持つ持たれつの世界であります、これを思へば其處に自然と惡い考へも

起らず世の中の人に、又神に、佛に、自然に、對して感謝の有難味がおのずと涌き、共存共榮の意義も深く体得し得るわけであると思ひます。今自分が直段の割に惡い品物を買はされたとする時、次からは必ず其の品物を、或は其の店から買ふまいとの奮概に似た氣持が心の何處かに涌き起るに違ひないと思ひます。此の心は誰にでもある氣特でありまして、此の心こそ賣る品物を拵へる者として大いに考へ大いに反省しなければならない点でなからうかと思ひます。我等は皆樣に常に正しい氣特で常にまじめに世の中を眺めていつて貰ひ度たいと祈つて居ります。それで私等は前述の樣な氣特で又第三者の立場から皆さんの作られた品物を眺めて嚴正に判斷し、裁いて行きたいと考へて居りますから、皆さんも我々の氣特を含んで圓滿なる檢査事務の遂行に御盡力を願ひ度いのでめります。それに付いて左の点は特に深く御注意の上間違のない樣にお願ひします。

1、量目は必ず正規量あること
量目は必ず不足しない樣によく注意して下さい、殊に白炭の素灰に水の含む量の多かつたもの、及黒炭の長らく窯内に置いたものは水分を澤山含んで居りますから普通にすると後で實量が不足しますから特に御注意のこと

2、白炭上以上と黒炭の極上は硬度が銅貨（十一度）以上の硬さとなつて居ますから今迄の樣に減多なものを極上にとらぬこと

3、黒炭の種類の上は最低硬度五度以上として檢査しますから「ネラシ」は充分に行ふこと、親指の爪で炭の折れ口が傷付く樣なものは上になりません

4、炭の切り方は必ず揃へること且つ撰別には一層注意して頂き度い、小口の凸凹不揃のものは等級が一段落ちるかも知れません

5、手で起る樣な密着しない皮付は必ず取ること

6、色の赤いものは並にもなりませんから必ず除くこと

7、込、荒に栗の混つたものが大變多く見付かるが栗を絶對に入れぬこと

8、ネブ、クルミ等の知きものは栗類に入れること

9、俵のしばり方は硬くしばることと受檢地迄出してゆるんでゐるものはしばりなほすこと

10、古俵を使用する者があるが之は絶對に使用せざること

11、白炭は必ず留窯とすること

黒炭製炭法

次に黒炭の燒き方と萓に就て簡單に申し上げます

◇炭窯

窯は吾々にすれば大切な身体であります、それで築設には少しでも横着すると必ず色々の故障が起ることは之はあたりまへです。いつも窯と一心同体であると云ふ氣特で手入も

し取扱もしなければなりません。よい窯を持たないで良い炭が出來る筈はありません。それで築窯には必ず周圍の水分と縁を切る様に造ることが大切で床はいつも張るものと定めて置いて貰ひ度い、そして胴卷は一尺以上、排水竹は伏せ、窯型に「ユガミ」のない樣にし天井は厚し、簿しのむらのない樣に均一に、そして頂上が三寸中央が四寸胴の處が五寸位に締め上げ、くぐりの高さは必ず三寸より高くせない事等が肝心であります。窯土も出來るだけ燒土を用ひ、不足で生土を使ふ塲合には必ずに火に合ふ信用の出來るものを使ふ事です。そして築設のとき手を拔いたり組末な造り方を必ずせぬ樣にして頂き度い、手を拔いたり仕事を橫着にすると出來る炭は必ず惡くなる許りでなく収炭量も少なく檢査にも落されるものが多く出來て大變な損になりますから、充分細かい處まで氣を配つて拵へて頂き度い、窯の造り方や燒き方は郡木炭同業組合で希望に應じて最も理想的な型式、方法に就て指導員を派遣して叮嚀に敎へて居ますから希望の向は申請して頂き度い。申請資格は木炭改良農事實行組合でなくては駄目であります。

◇改良八名窯築設法

百三十貫取で説明します。

奥行十尺

【窯横巾】 奥から一割出た所で奥行の七掛をとり、四割出た所で奥行の八掛、七割出た所で六掛の横巾をとります。

【窯口】 巾は一尺五寸

【床の勾配】 一尺に付三分奥へ下る、奥行十尺以上の窯でも全体で三寸五分以上下るは絶對にいけない樣です。

【不動】 不動桝前面の横巾は窯奥行の一割乃至一割一分、奥行は不動桝前面巾横の八割乃至九割を程度とし餘り深くせぬ方がよい樣であります。奥は三寸開きでクグリの高は三寸それから如何に大きな窯でも先に床の勾配の時の通りグクリの高さを三寸五分以上とせぬ方がよい、掛石は下の厚さ二寸五分か三寸として不動の內例に向く方は少しく斜めにけづります。

【煙道】 腰壁一尺に付二寸五分の割合にて奥へ倒し特に尺八形即ち吹付下部から一尺二寸乃至一尺五寸位上つた所で自然に三寸程折れる程度にし出拂口を五寸か五寸五分角に仕上ます。

【床張り及排水設備】 窯底面より二尺位堀下げ末口三寸位の栗、松等の如き劣等材を七、八寸位の間隔に列べ倘其の上に末口一寸內外の小枝を橫に隙間なくならべ倘其の上に笹、檔葉、柴、藁の樣なものを置き土を一尺五寸位盛つて折固めて一尺程の厚さとします。若し乾燥地で土質も惡くイキをする心配のある所は末口三寸の丸太の代りに末口一寸程の枝を縦に間隔をせまくして列べ其の他は前と同じい樣にします、排水管は直經二寸位の竹

を二つに割つて節をとり縄で縛り不動の底に入る方は斜めに切つて伏せます、伏せ方は不動の底から窯口へ向けて液の流れる樣に溝を掘つて埋めます、窯壁及点火室、側卷は燒土であれば誠によいのですが、無ければ火に合ふ自分で信用出來る土を煉つて用ひ不動前は直立に其の左右からは一尺の高さまで直立にし 其れより上は三寸開の豫定で 幾分斜めとし厚さは下の方で一尺位に卷きます、窯口、下の方の巾は一尺五寸、上の方は一尺四寸とし兩側に高さ三尺二寸の柱石を立て其の上に五寸角の長さ二尺五寸位の額石を掛け其の外部二尺五寸程出た所に高さ一尺五寸の小柱石を立て燒土を以て袖垣を作り点火室とします。

【障壁】 額石の下の下の方稍奥に高さ一尺八寸乃至二尺位に作ります、之は口焚の際根煙を防ぎ口焚材の燃燒を容易ならしめるものであつて火に合ふ石でも差支はありません。

【天井】 最高部の位置は後の方からは奥行の三割出た所とし此の高さは窯の最大横巾の一割五分から一割九分位とします、之は土質の强弱で考へなければなりませんが、落ちなければなるべく低い程よい樣であります、厚さは最高部より三寸、四寸、五寸といふ樣なのに打固めます。

【窺穴】 之は必ず設ける必要もありませんが炭化狀態を見て取扱出來て便利ですから、甲乾が出來ましたなら火著の樣なもので靜かに開けます。

◇木材の成分

木とは何んなものから出來て居るかと云ふことは隨分むづかしい事でありますが、其の大体を知つて置かないと製炭の研究に一寸困ります。木の生材は澤山の水を含んで居ますそして其の含んで居る量も樹の種類枝と幹、老木と若木、季節等に依つて違はありますが普通全重量の四割と思つて居れば間違はありません、殘りの六割は化學成分で此の中の五割は炭素、それに四割九分の酸素窒素はかに六分の水素灰分其の他少量と云ふわけで炭になるものは之等の中に含まれて居ります。

今假りに酸素を與へないで乾燥した木を熱して分解させますと最も都合よく酸素と水素が結合して水となつて四割九分の炭素を得ることになります（水は酸素二と水素一の割合で出來て居る）然し酸素と水素の重量比例から計算しますと結局水になるには水素が餘ることになりますので其の餘つた水素を炭素と化合させてメタン瓦斯（炭素を含む量の最も少ないガス）にして一分五厘程の炭素を飛ぼすことにしますと三割一分七厘程の木炭を得ることになります、けれども之は理想的に考へた炭化率で實際の製炭には熱や空氣を與へるから炭素は溫度に依つて色々のガス、例へば炭酸ガス、一酸化炭素其他種々の炭化水素メチールアルコール、酸類となつて土管から逃げて行きますので結局黑炭では一割八分内外白炭では一割一分内外の收炭率となるのであります。

◇木材の炭化

木から木炭を造ることを俗に炭焼と申しますが、製炭の事を燒くとか燃やすとか、蒸し燒とか云ひますが、之は一寸趣が違ひます、實際は木材を熱して分解せしむることが即ち炭化であります。それで木材の炭化はジャガ薯から片栗粉をとつたり、海の水から塩を取るやうな或る一つの物の中に含まれて居る物を別々に分けるのと違ひ全くの化學的の變化即ち高温度で元の物とまるきり違つたものを造る仕事であります、それから木は或る程度の熱を加へますと、發熱及應と云つて他から熱を受けないでも自分で熱を出して炭化即ち化學的分解を始めます。其の温度は黒炭では攝氏三五〇度、白炭では三〇〇度以上で此時を火が着いたと俗に皆が申して居ます。

◇炭化温度

炭化とは前に述べた通りでありますが、今最も優良な炭を最も多く収炭しやうとすれば其の炭化温度を如何なる程度にするか、又窯の型を何うしたらよいか、と云ふことになりますが之は中々むずかしい問題で理窟から云へば一定の温度で炭化させ最後に高熱でネラシをかけて炭素以外の物質を除き、そして急に消火させれば好いのですが、而し其の一定の温度と云ふものは如何なる度合を云ふのか、窯の造り方、上質、炭材等に依つて夫々違ひますから最も適當な炭化の經路と云ふものは殘念ながら未だハツキリして居ないのであります。兎に角輿へる其の温度の高し低しに依つて、木材の化學的變化の違ふことは既に前に述べましたが之が炭質及収炭卒にも重大な關係があるのでありまして、東京帝國大學の清證演習林で試驗したのを見ますと、窯内温度三百度内外で炭化し千百度の高温度で精練を行つたものは炭化温度が三百度以上の高温のものより品質がよかつた。即ち低温で炭化し高温で精練したものは高温で炭化したものよりも良かつたのであります。

要するに始めから高温度で加熱しますと先づ酸素と水素と化合して水蒸氣となり炭素は酸素と化合して一酸化炭素と云ふものになつて、炭酸ガスになるときよりも二倍の炭素を失ひますので出來上つた炭は輕軟で比重も硬度も共に低い質の悪いものになるのであります。俗に荒焼とは此の様な焼け方を申します。其れのみならず大切な炭素が氣体となつて逃げて行きますから、窯口が割合灰化して居ないでも歩留りは大變悪いのであります。

それで炭化温度は始めはなるべく低い温度で炭化せしめ最後に ウン と高熱でネラシを行ふのが最も良い炭を最も多く得る大切な要件でありますから、常に心掛けて此の様に取扱つて下さい、それからネラシの温度を高くすればする程硬い炭を得られます。

◇蒸氣乾燥

炭材詰込をしたならば徐々に焚火をして炭材の窯内乾燥を行ひます、之は木炭の締りをよくし皮付の完全を計り點火を容易にし縦割を防ぐ爲に行ふ仕事ですから、必ず乾燥をや

つて頂き度い、それから此の乾燥の時忘れてはならないことは土管をしぼつて焚き入れることです。即ち五分位の板又は稲扱の古い歯を五分間隔に烟突口に列べて焚き烟りが、からくなれば之を取つてサン俵を當て前には戸をし甲の前、後へ手を當てて見て温度が平均になる迄休む、こんな事を何度も、くりかへして行ふのであります。そして晝は焚火をし夜は土管にサン俵を當て前口には戸をして、蒸し込みを行ひます、之を一晝夜以上二晝夜位します。

それから蒸氣乾燥の時土管口温度は六十五度より高くあげてはいけません、餘り高くすると此の乾燥中に炭素が逃げて行つて出來る炭は輕くて軟かい、そして火持の惡いものになり易いから。また此の時の口の焚き方は炎を窯内に入れないで熱い烟を送つて乾燥すると云ふ氣持でなるべくよく燃ゑ、よく煙の出るものを用ひます。

◇點火（つけこみ）

點火操作は乾燥焚込の延長でありまして蒸込した翌朝土管口を奥の方から半分加減蓋を掛けて口焚をします。そして温度が八十度に昇つたならば、加減蓋を取つてサン表を當て前口も石を當てて二時間以上休みます。これは蒸氣乾燥の不足を補ふと共に火の着をよくし皮付をよくすると云ふ爲に行ふものですから必ずやつて下さい。而して此の休む時間が二時間以内は絶對にいけません、二時間以内だと口焚が燃ゑずに上木が燃ゑる心配があり

又窯一面がまんべんなく着きかねます。それから此の休む時必ずサン俵を當てて下さい、板の様な烟の少しも漏れないものだと立消する炭になる心配があります。それで八十度になつて二時間以上休みましたならば又前と同じい様に土管口を奥の方から半分蓋を掛けて口焚をします、そして温度の昇り加減と前口へ吹き出る炎を見て焚きにくくなれば加減を一本づゝ取り其の窯の最高温度に達する一度前までに加減蓋を全部取り拂ひます、若し未だ加減が殘つて居る中に最高温度がくれば殘りは一度に取り拂つて了ひます。

假へば其の窯の最高温度が八十四度とすれば八十三度迄に全部取拂ふことになります。全部取り拂つてから三十分から一時間位焚續けそれから又加減を掛け始めます。其の最初は一度に二寸程かけ、それから後はケタ石の奥へ炎が入らぬ様にして土管口六割位まで掛けます。百五十貫取り以下の窯ならば八十一度か八十二度位になつた時焚止め、百五十貫以上の窯ですと温度が降るだけ降つて又少し昇り始めたとき焚止めます。

これから窯ずもりをしますが之は極く静にホンの五厘か一分程宛かけて下さい、手荒なことをしますとすぐ窯の中へひやいて惡い結果になります。嵐口は百五十貫以下は高さ三寸に巾五寸、百五十貫以上のものは高さ四寸に巾五寸位に、即ち大体、出拂口の一倍半位に作ります。此の時、場合に依つては七十九度位まで温度が降ることがあります。こんな時には加減を五分程開きまして口焚止の時の温度に昇る迄置きます。こうして口焚止の温度まで昇つた時には前の口焚に白いころもがかゝりますから着いたものと思つて間違ありま

せん。尚雨の夜とか冬の夜で口焚がなくなつて致方のない時は止むを得ませんから、其儘前口に白い衣がかゝる迄待ちます、加減は十五分に一分位かけて見て溫度が其儘居据る樣でしたら又少し掛けると云ふ樣にして自分の炭化せしめんとする思わくの所迄かけます。普通は廣い所で二寸五分位殘る程にすればよいかと思ひます。時によると一分か二分加減すると急に溫度が昇ることがありますが、こんなときには消ゑる前兆ですからすぐに、かけた、だけ元へもどして窯の灰復を待ちます。窯の着火は學理上攝氏の二百七十度（窯内溫度）で發熱反應に依つて炭化を始めることになつて居ますが實際は三百度以上（土管口で八十度前後）となります、火が着いた時の大体の見分け方を申しますと。

1、煙が長く續く樣になり極く靜かなときは一時排煙に弱りか見ゑます
2、土管の織目や屋根裏から滴る液に黑味が混つて來ます
3、煙のにほひが大變辛く鼻をさす樣になります
4、焚き止めて前が赤くなる樣でしたら、それは焚不足ですから、此の際又焚き始めて溫度が昇るか其儘居据つて二時間も變化のないとき
5、其外天井の上に立昇るカゲロウや土管と天井を手に觸れ見たりして判斷します。

燃ね下りの度合は一時間に五分程が一番好い樣です、假へば三尺八寸の長さとすれば、七十六時間即ち三日三晩餘りと云ふことになります。尚着け込みに付て御注意したいのは手、眼、鼻等に依つての判斷は正確とは申されませんし溫度計による塲合でも窯土や窯の

按梅に依つて一樣でありませんから皆が自分の窯で三四回經驗を得て溫度計のあてる塲所溫度、天候、炭材の乾燥狀態等を記載して以後大体其の狀態に置いて製炭する樣にすれば自分でなくとも家内の者にでも焚入れさせることが出來ます。

◇ 精製煉（ネラシ）方法

土管の加減蓋の両側へトガゲ色か、白い灰色が來たとき始めてネラシにかゝります、最初の取り方は一番大切です。荒くとると、横ヒヾが行きますから此の始めの五分は五回か六回に引き一回の時間は大体十五分内外で一時間餘りに引きます、次に一寸程を五回、一回の時間十二分程で一時間位に引きます。次は五分を二回、一回の時間十五分位にし其の後は之と同樣に引きます、此時土管のフチの白色は段々延びて來ますから之が一諸に連絡したならば、むしをかけます。此時、前口だけ壁を塗り土管は三十分程其儘にして置いて倒すことです、之は窯の中に惡いガスが澤山殘つて居て炭の色を惡くしたり、有毒ガスがあるから、それを出して了ふ爲であります。それからネラシは何の爲に行ふのかと申しますと炭化した儘の炭では尚澤山の有毒がガス（一酸化炭素と云ふ人間でも死ぬ樣な毒ガスで此の毒ガスを出し横折のせぬ・そして火持のよい物にし、又バチン〳〵と飛ぶのを防ぐ爲に行ふのであります。

それからネラシをかけると大變減ると云ふ人が澤山ですが之は考へ違ひです。ネラシの爲に減ると云ひますが、前は或は少し減かも知れませんがそれだけ奥の方に目方が增しますから一窯の出炭量には變りはありません。今迄の減つたと云ふ人の炭を見ますと皆口焚不足が多い樣です。即ち着け込の時、前立が口焚の不足分の熱を補ふ爲に然えて減つたのですから此の点は皆御一考願ひ度いと思ひます。

◇合理的な製炭日割

第一日　窯の修繕を爲し炭材立込み口焚き
第二日　蒸氣乾燥を爲しつつ出炭した炭の俵装
第三日　口焚着火加減操作
第四日・第五日・第六日　俵裝並ニ炭材伐り
第七日　精煉
第八日　炭材伐り
第九日　炭材寄せ
第十日　出炭

◇製炭の改良と實行組合

縣の方針も郡木炭同業組合も共に指導其他の奬勵は本年から個人相手を止めて團体本位となりましたから、皆さんは七名以上の同意者を求めまして木炭改良農事實行組合を組織される樣にお奬めします。之れには縣の奬勵金もありますし將來何かと種々の便益を得られます、組織に就いては木炭檢査輪島出張所及郡木炭同業組合で一切のお世話をして上げます、又木炭の販賣なぞも今迄の個人賣よりも組合として纏めて賣つて居る所は皆相當の成績を擧げて居ますから、まことに一擧兩德です

萱の栽培

本郡にある萱は大方スヽキでありまして炭俵に一番好い萱であります。今迄は何處の山も萱があり過ぎて其れを絶やす事に相當苦心されて居られた樣に聞きましたが、來年からは木炭の俵が萱になりましたから絶やす心配はいりませんので大變結構だと思ひます。然し絶やし過ぎた村もある樣で此の地方は誠に困つたことです。

それで萱は將來益々いる樣になりますから此の栽培法をお知らせしませう、萱は何んな所にでも出來ます。原野、田畑の近傍等特に不用の空地を利用することは農業經營上一番

よいことです、植付は秋刈取後、株を掘取つて根分けをします、（根分は大きい程收穫が早くて多い）そして三尺に一株宛位に植込ます、肥料は施して居る所もありますが、肥料をやると却つて萱の品質を悪くすると云はれて居ます。植付後毎年七、八月の土用に下刈手入を行ひ秋穗が出ると一株乃至二株宛縄で圓錐形に上部を束ねて保護します、刈取は十月から十一月の少し萱が色づいて來たとき晴た日に刈取り、一握り位の小束として根の方を上にして倒さに丈夫な竿などにかけて青枯れになる様に乾し上げて保存します。秋色づいて刈ると云ふのは萱の翌年の芽立をよくする爲で、餘り早く刈ると翌春の芽立に必要な養分を充分貯へることが出來ないから從つて芽立が悪くなり毎年こんな事を續けると弱つて遂に絶えて了ふからです。現在萱の生えて居る所ならば空いて居る所へ補植して毎年手入れを怠らぬ様にすることが大切であります。

收穫は自然生の極く萱の薄い劣等の所で計算して見ると一反歩に百五十貫程で、一枚の俵は二百匁内外で出來ますから七十五枚程出來ます。之を萱專用地としますと二畝歩内外で千俵分程の萱が取れます。

◇炭俵の製造

前に述べた様に萱は充分みのらしてから刈つてある爲普通では硬くて中々仕事が困難ですから編む一、二晩前に土間で萱に水を掛け充分しめらしてから編みます又土間に萱を竝べ湯を掛け又萱を竝べて湯を掛け、こう云ふ風に積み重ねて上から、むしろを掛けて一晩蒸して使ふと一層仕事が仕易いとの話もあります。

編間は十七糎（五寸六分一厘）四ヶ所編でフチは編上後何枚も、しばつて木槌で叩くか又は二度折つて編むか、兎に角見本の通りに美しく編んで下さい、（見本は檢査員及實行組合へ配布してあります）それから天日に乾します。

◇萱俵裝の作り方

角俵は從來の作り方と變りはありません。縱縄も小口掛であります。又丸俵の縱縄は二本の縄を一緒にして俵の眞中へ通します。口當材料は枝の先を用ひ、コバ、杉、楢の葉、簀、葉の着いた枝を用ひてはなりません、そして俵口の周圍へあてる枝は巾二寸程かける様にして下さい、俵裝が悪いと中の炭が良くても等級が一段落ちますから注意しなければなりません。俵裝の實際の作り方は口や筆で中々わかりませんから最寄の檢査員に習つて頂き度い。萱俵は次の順序で改正しますから萱塲の準備など怠りなく御願ひします。

◇萱表裝實施年度割

一、昭和十一年一月ヨリ十二月迄（實施第一年目）白炭の楢、樫、楢小丸、雜の上以上、黒炭の櫟、楢、樫、楢小丸、雜の各丸割上以上全部とす。萱の尙ある所は白、黒楢、

込上以上

二、昭和十二年一月ヨリ十二月（實施第二年目）白炭、黒炭の極上、上、並、全部及込類の上全部とす、萱の尙ある所は白、黒荒上以上

三、昭和十三年一月ヨリ十二月（實施第三年目）鍛冶炭・栗炭、粉を除く外の全部、量目は、ふうたい四百五十匁程にして頂き度い、即ち正味四貫と、ふうたい四百五十匁で都合四貫四百五十匁位となるわけであります。

以上はホンの大体で甚だ簡單でありますが、兎に角にも自分も滿足し、人も滿足する品物を拵ゐる事に一段と御苦心を御願ひして筆を擱きます。

佛說無量壽經嘆佛偈にこんなお言葉があります、「無明と、欲と、怒と、世尊は永くましますす」と我々お互の深く味ふべきではありませんか、無明とは理非曲直のわからないことであります。

檢査に就いて再び注意

本郡でも今迄檜類の生産の七割は皮を取つて居ますが、尙未だ不良の皮付を其儘俵裝する者があつて、其の爲に此の皮が運搬の途中に取れて粉となつて俵裝を汚なくしたり、編目から漏れて量目不足になつたり、又蒸氣乾燥や精煉の不充分であつたりするが爲等で皮の所が持別に甚く曝跳したりして市塲へ出してから色々小事が多くて非常に評判が惡くて他の善良な生産者が造る優良品までも此の爲に値段を下げられると云ふ誠に困つた結果になつて來ましたので、今後縣が奬勵して居る樣な眞當に完全な皮付を生産すると認むる時期迄檜類の皮は取つて頂きます。取らぬ時は檢査の塲合等級を下げるか中止改造をさせますから豫め御承知置き願ひます。施行期日及種類等は次の通りでありまして間違へぬ樣今から氣を付けられ度い。

殊に本郡の炭は他の競爭地の木炭の品質に比較して値段が割高に賣れて居ますから一層心掛して良い品物を造つて頂き度いのであります。

一、檜類の皮を取つて居ない人は來る十一月一日より取ること

一、檜類で皮を取るものは黒檜丸、割上、黒檜小丸上、黒檜込上

正誤表

頁數	行	誤	正
1	八	皆乂。	皆同。
〃	十三	注。活	生。活
2	一	有。離	有。離
〃	三	奮。概。	憤。慨。
〃	四	氣特。	氣持。
〃	六	〃	〃
〃	七	〃	〃
〃	九	〃	〃
3	十六	減。多	減。多
〃	七	栗。類	栗。類
4	十二	筒。單	簡。單
〃	一	窯を特。たない	窯を持。たない
〃	四	薄。し	薄。し
5	六	必ずに。火に	必ず火に
〃	八	内例。	内側。
〃	十五	折。固めて	打。固めて
6	八	額石の下の下の。	下の二字削ル
6	十五	火著。	火箸。
7	五	四割九。分	四割三。分
〃	〃	六。分	七。分
8	三	著。	響。
〃	五	即さ。	卽ち。
〃	十四	上。質	土。質
9	一	與。へる	與。へる
〃	二	卒。	率。
10	十	氣特。	氣持。
〃	十三	サン表。	サン俵。
12	六	灰。復	恢。復
〃	九	見志。	見に。
16	二	植ゐ。	植に。
17	十五	雑。の	雑。の
18	十六	暴。跳	爆。跳

昭和十年十月十五日印刷
昭和十年十月二十日發行　（非賣品）

石川縣鳳至郡大屋村字二ッ屋落合三番地ノ三
發行兼編輯人　星野一長

石川縣鳳至郡輪島町字河井町一部三十二番地
印刷者　高森子平

石川縣鳳至郡輪島町字河井町一部三十二番地
印刷所　丸二印刷所

發行所　鳳至郡木炭同業組合

終